



南小だより

E-mail kogenminami@ac.city.myoko.niigata.jp

〈教育目標〉

進んで学ぶ子

思いやりのある子

最後までやりぬく子

〒949-2112 妙高市関川1592

TEL: 0255-86-2104

FAX: 0255-86-3212

ウルトラ5つのちかい

校長 渡辺 伸一

先日、学校の図書室でコミック版世界の伝記『円谷英二』が目に入り、手に取ってみました。今の子どもたちは、トトロやナウシカ等を創ったスタジオジブリを知らない人はいないでしょう。私の子どもころは、何と言ってもウルトラマン。いつもハラハラドキドキしながら瞬きもしないでテレビ画面を見ていました。制作したのは円谷英二さんの円谷プロ、ウルトラシリーズのテレビ放映が始まったのは、今から52年前の1966年、円谷英二さんが65歳の時です。

厚い表紙をめくると“ウルトラ5つのちかい”の文字が目飛び込んできました。私の記憶にはなく、この言葉が気になりちょっと調べてみました。使われたのは46年ほど前、『帰ってきたウルトラマン』の最終話に登場した言葉だそうです。登場する少年が最後に叫んだ、5か条からなる宣誓文で、嫌なもの・許せないものと戦える勇気のある人になるための魂の誓いだそうです。

“ウルトラ5つのちかい”を見て、私は『妙高市の朝元気スタート運動』を想起しました。妙高市の運動の3本柱は、

- ・ しっかり朝食
→ 腹ペコのまま学校に行かぬこと
- ・ たっぷり睡眠
→ 天気の良い日に布団をほすこと
- ・ じょうずにメディア
→ 土の上を裸足で走りまわってあそぶこと

です。妙高市ではこの3つの柱を、ご家庭で取り組んでほしい3つのこととして各学校でポスターを作り配布しています。

皆様も3つの柱と似ていると思いませんか。約半世紀前の“ウルトラ5つのちかい”は、おそらく今の親世代や祖父母世代のことですが、私は今も変わらぬ価値ある内容を含んでいると感じました。他の2つと合わせた“ウルトラ5つのちかい”を不易な価値あるものとして学校、家庭、地域で求め続けていきたいと思ひます。

ウルトラ5つのちかい

- ひとつ、腹ペコのまま学校に行かぬこと
- ひとつ、天気の良い日に布団をほすこと
- ひとつ、道を歩く時には車に気をつけること
- ひとつ、他人の力をたよりにしないこと
- ひとつ、土の上を裸足で走りまわってあそぶこと

大人の姿と子どもの心

私がかつて勤務した学校での話です。学校のことでよく相談に乗っていただいた地域の方から、仕事についての一般論で次のようなことを言われたことがありました。

「早く済ませたい仕事や期限が限られた仕事は忙しい人に頼むといい。すぐにやってくれるよ。でも、暇そうにしている人は、時間はあるけどなかなかやってくれない」かなり前の話です。私に対する忠告（仕事を頼まれる人になれ）で、世間一般の話をされたと記憶しています。そのような見方もあるのか、なるほどと当時は思いました。

新採用のころは、土曜の授業が午前4時間でお昼を食べて午後は部活動、日曜も部活動で多いときには1日、そして月曜の朝を迎えていました。当たり前だと思っていましたが当時は疲れていたはずです。目の下にクマはなかったと思いますが、はたして当時の生徒や保護者の目に、疲れた私の姿はどのように映っていたのでしょうか。

働き方改革が学校現場で叫ばれています。勤務時間の調査から、待ったなしの働き方改革に行政も動き出しています。いろいろなところで平成30年度から少しずつ変わろうとしています。しかし、働き方改革が各方面で始まって失ってはならないものがあります。教職員の姿（保護者の姿も）は子どもの心に大きく反映するということです。私たち大人はいきいきとした姿を子どもたちに見せるようにしたいものです。私は、大人が自らの姿で範を示すことで子どもたちの力を引き出すことができると考えます。

平成29年度が終わります。あまり難しいことを考えず、子どもと共に過ごす時間を求めて、これからも15分休みと昼休みは体育館に行こうと思います。